
第2回 東近江市市民協働推進委員会

資料

- 1 第1回市民協働推進委員会（ワークショップ）の意見取りまとめ・・・・・・・・・・ 1
 - （1）これまでの協働体験談（うまくいった、いかなかった）等
 - （2）自分達で解決できない課題等
 - （3）協働（コラボ）したいときに、どのような場所・ルール・人などが必要か？

- 2 意見シートで頂いた意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - （1）協働ラウンドテーブルへ意見
 - （2）その他、自由な意見

- 3 東近江市協働ラウンドテーブルのしくみについて・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

1 第1回 市民協働推進委員会(ワークショップ)の意見の取りまとめ

(1) これまでの協働体験談(うまくいった、いかなかった)等

うまくいった体験談

- ・サマーホリデーは資金面で厳しかったが、まち協から応援してもらえるようになった。
→ 理由：**【共感】** 効果：資金調達
- ・行政や教委の関わりが薄くなったイベントが実行委員会で出来るようになった。
→ 理由：**【当事者意識】** 効果：自立、市民主導
- ・蒲生ではまち協活動に JA や商工会も参加するようになりそれが定着している。
→ 理由：**【共感】** 効果：地域包括的なまちづくり
- ・区長会は行政の情報を流すだけだったが、コミセンと相談し、連合会長が主導権を持って防災訓練を企画するようになった。県大と連携も出来るようになり、行政が見学に来るようになった。
→ 理由：**【話し合い、目的意識の共有】** 効果：地域自治の強化
- ・地元の課題に向き合う役割はコミセンや自治会である。
→ 理由：**【当事者意識】** 効果：地域自治の強化
- ・建部地区の認知症保護は自治会がネットワークを組んで自主運営している。社協からの呼びかけではすべての自治会が集まらない。
→ 理由：**【当事者意識、問題意識】** 効果：地域自治の強化、安全安心のまちづくり
- ・蒲生の病院問題では、まち協と自治連が協力して勉強会を開催し、まち協から提案したものを行政が採用するという事もあった。
→ 理由：**【共感、問題意識】** 効果：市民視点のまちづくり
- ・五個荘では活動資金として住民から育成資金を徴収している。
→ 理由：**【共感】** 効果：資金調達
- ・視覚障がいの方へ来てくれるボランティアはなかったが、対面朗読ふくみみというボランティアが立ち上がり、自宅において書籍や手紙などの対面朗読を行うことをしてくれるようになった。待望されていた。雑誌にも載せてもらったが、全国で初めての事だった。話すことで皆が笑顔になれるし、そういうことを目指していきたい。
→ 理由：**【問題意識、困りごとの把握】** 効果：市民活動団体の設置、困りごとの解決
- ・青少年に関わる事業をする時に、地域の人(自治会)にも協力してもらい、趣旨を理解して頂き、先生や地域の人で地域の中でウォークを実施することができた。8年続いている。

- 理由：**【共感】** 効果：人材育成
- 東近江には外国籍、特にブラジルの方が多いが、日本の子供たちと交流がもてなくて、トラブルに巻き込まれることもあった。公園に集まって、音楽を通して交流しようということで活動がはじまった。はじめは自費のみだったが、市の補助金をもらいながら活動することができた。
 - 理由：**【問題意識、行政の制度】** 効果：人材育成、資金調達
- 中間支援組織の寄付金制度を活用して市民の方に支えてもらいながら活動している。
 - 理由：**【共感、中間支援機能】** 効果：資金調達
- サンバの活動をしている中で、サッカーチームに声をかけてもらい、ハーフタイムに踊らせてもらった。子ども達の自信にもつながった。
 - 理由：**【共感】** 効果：活動の周知、人材育成
- 中間支援組織のHPで活動を紹介してもらえたのも良かった。
 - 理由：**【中間支援機能】** 効果：活動の周知
- 障がいのある方やニートの方が働く体験をする場所の必要性を感じ、農業を通して就労体験をしてもらう活動をしている。福祉と農業という違う分野でつながりそうにないと思われるかもしれないが、つながることでお互いに大きな効果があった。また、来てくれている人は若者サポートステーションの情報をみた親や、民生委員の協力もあってつながった。
 - 理由：**【問題意識、マッチング】** 効果：人材育成、就労体験、産業振興

うまくいかなかった体験談及びその他

- 市民活動で始めたことを行政が後ではじめたことで、市民活動が下火になった。
 - 理由：**【行政の協働意識】** の不足
- コトナリエは行政の支援からスタートし大きくなったが、維持するのがしんどい。
 - 理由：**【維持が可能】** なレベルを超え始めている。
- 協働という言葉がまだ理解されていないと思う。理解されるのに時間がかかる。どれを協働というのか。やらないとわからないと思う。
 - 理由：言葉だけでは理解しづらい。**【まずは活動】**。
- 理念とか目的とかあって活動している。協働と思ってやっているわけではない。知らないうちに色んな人が集まってきている。後から、それが協働と言われることがある。
 - 理由：**【理念や目的を共有する】** ことが、協働の第一歩である。

(2) 自分達で解決できない課題等

- 5年間の補助金のあと、自主運営になった里山活動で、世代交代が課題となった。
- 自治会加入率が低い中で、行政から「義務ではない」という話はしないでほしい。
- 社会教育団体はガードが高い（福祉団体は協力してくれやすい）。
- コトナリエの補導にたくさんの団体が協力しているが、まち協が調整しきれない。
- 自治会から脱会していく問題。理由は役員が嫌。罰則もなく止める手段がない。条例にも書いてあるが、効果は薄いかも。
- 認知症（1人暮らし）で色々な物を買ってしまうという方のお世話をされている人（元民生委員）がいるが、解決策がなくて、総合的に相談をするところがないという話がある。
- 「あなたは自治会に入っていますか？」という市役所のCMを見たことがある。東近江でもやって欲しい。
- 福祉の仕事だと、制度のすきまの部分が課題。
- 都会の人が田舎に移り住むときに、青年団あこがれて入ってくるという人がいる。自治会にあこがれて入ってくる人もいる。小さな集落に憧れる人もいる。しかし、逆の考えの人の方が多い気がする。昔からの集落は敷居が高いという人もいる。入って欲しいと待っている人も多い。

(3) 協働（コラボ）したいときに、どのような場所・ルール・人などが必要か？

- コーディネートする人、地域のリーダー
まちづくりにはイベント的なものと日常的なものがある。今後力を入れていくべきは日常的なもの。行政と市民のやることを【コーディネート】してつないでいく必要あり。
- 【行政情報の提供】
- 人材を確保するためには【チャンネルをたくさん持っておく】ことが大切。
- この委員会を市民ベースの組織にしていく必要がある。それには【ロコミ】しかない。【住民・市民が同じ目線】で見えて提案していけるように。
- 住民と市民グループの【ギャップを解消】する必要がある（やりたい人がやっている、との誤解を解くべき）。

- 環境等の市民活動では【活動資金】がない。自主財源必要。
- 【疲弊しないしくみ】。仕事やからできることもある。そして、色んな人に【相談】でき、色んな人がつながって【役割分担】できる、厚みのある活動。【多くの人が応援できるしくみ】。その人、その団体の応援団をつくること。
- 【困っている人に手を差し伸べる】ことができるしくみがあればいい。
- 制度にのれないところへの【サポーター】ができれば。それは、福祉だけではなくて、【色々な立場の人が集まる】ことが必要だと思う。そういったサポーターが自然に生まれることも大事。
- 色々な立場の人が集まる時に、皆がわかる言葉で説明する必要があり、相手のことを【思いやること】ができる。【共感】するには大事。
- 協働ラウンドテーブルは小さいコミュニティの話か市全体に及ぶ話に関するとか。
- 協働が大事だという話をする時にどうしてもネガティブな話から入るのに違和感がある。危機感というのはわかるが、【ネガティブに捉えない面白いもの】にしたい。子どもたちにはネガティブな話は関係なく、このまちが好きやこのまちをこういうまちにしたいということが大切で、【子ども達の未来】が明るくなるように【バランス感覚】は残したい。
- 良いまちだと思っている。【地域の資源を活かしたい】。
- 肥大化した行政を本来の形に戻していくことが本当に大切だと思う。
- 地域の色々な人が関わって【地域で子どもが育つ】しくみ
- 自治会の話で感じたが、どのように【当事者意識】を持たせるか。【参加意欲】がわくように。どう参加させるか。ネガティブな理由だけでなく。
- 【地域の絆】に憧れるようなまちづくり
- 【コミュニケーション】がこれからの最大の課題で大事なこと。
- よそ者を拒まないような【話しやすい環境】が大事。
- 【危機はチャンス】だと思うことも必要。
- 【課題が明白】だからこそ、皆が助け合おうとする。

2 意見シートで頂いた意見

1. 市民と行政、市民と市民が協働で取り組みを進めるしくみとして「協働ラウンドテーブル」が市民協働推進計画に記載（25ページ）されていますが、このしくみに必要なことは何だと思えますか。

質問

Q 協働ラウンドテーブルの仕組みの図に関して、行政提案から市民協議について、開催公表前の市民協議とはどういうものか？また、行政関係課協議も元は市民提案からきているものなので、両者に明確な違いはないように思うのですが、ラウンドテーブル以前にそれぞれに協議されることとはどのようなものですか？

A 計画に記載してある協働ラウンドテーブルは案ですが想定していたのは、行政から協働提案があった場合、担当課の希望又は関係する市民（団体）にラウンドテーブルへの参加を打診します。そのラウンドテーブルに参加するかどうかを事前に協議することを想定しています。あるいは、行政提案の場合、市民を公募することになることも想定されます。市民からの協働提案についても同じことを想定しています。

この仕組みについては、市民又は行政からの一方的な要望の形ではなく、「どのような課題で」「どのような団体（行政担当課）と」「こういった役割分担で」こういう事業をしたいという協働提案をしてもらう仕組みを想定しています。

Q 協働ラウンドテーブルの仕組みの図に関して、市民協働推進委員会の役割としてアドバイスとありますが、委員会（委員）の立ち位置はどのように考えたらよいのでしょうか？

A これも案ですが、市民協働推進委員会の委員の皆さんにつきましては、会議のテーマに応じてアドバイザーとして数人の方にラウンドテーブルに参加して頂くことを想定しています。そして、市民協働推進委員会には、報告・連絡・相談をしていく想定です。

意見

前提となるもの

協働への理解等

- 行政関係課協議を円滑に進めるためには、行政関係職員の【協働のまちづくりの理解】が必要であり、研修会、先進地での体験実習等、【人材育成】を図る事が必要であると思います。また、【行政のタテ割り問題の解消】、行政職員の地域や市民活動への積極的な参加による【意識改革】が必要だと思います。

広報

- 協働への取り組みとして、どのように積極的な【市民の参画、活動を促していく方法】を考える必要があるのでは。
- 行政や事業者からの提案だけでなく、市民からも提案が頂けるように、【分かりやすい事例の掲示、提案方法の周知】が必要かと思います。

課題の把握

- 地域の課題を把握する方法として、どのように【市民の真の声を吸い上げる】のかの方法を考える必要があるのでは。

しくみ

課題設定、目標設定

- 過去の延長線上に未来があるのではなく、「【未来から現在を考える】」ことが大切だと思います。即ち、将来の「あるべき姿」「ありたい姿」が明確になっていて、それを実現する為に市民・行政が協働で考え行動（考動）することが大切ではないでしょうか。
- まず協働の意味をしっかりと議論する必要があると思います。いろいろな立場の方が集まり、議論する時に全く違う景色を描きながら話していることは多くあると思います。協働の形がいろいろあることは良いと思いますが、【登る頂上を定める】ことは重要だと思います。
- 協働ラウンドテーブルが【何を目的に話し合う場】なのか、またどんな仕組みの中に位置付けられるのかを、参加者や行政職員が熟知し【共有】していること。
- 【課題把握が適切か】どうか

市民提案及び行政提案

- 市民レベルの提案ということはかなり難しい問題のように思います。そこで、市民提案型ですが、その前段階として【行政が考え得る全ての可能性のある分野の提示】を行い、その分野毎に必要な提案を受けようとする事で提示しやすく成ると思います。また、この提示によって、問題意識が生まれ、また、行政サイドの考え方について疑問や指摘を投げかけてくる可能性が高くなるように思います。しかし、いきなり行政提案を提示してしまうと、反発の市民感情が生まれる可能性がありますの、一応の市民提案についての広報は必要かと思います。またこの活動自体に対しての認識のない市民も多いと思いますので、先日のワークショップの席上ででも話しましたが、個別に認識して貰えるようにする【広報活動】も重要だと思います。この場合の広報の方法についてしっかり考える必要があると思います。
- 【難しい手続きにならない】ような工夫が必要。

- ・市民提案を【**どのような形式で提案**】してもらうのか？を考える必要がある。
例えば、自治会の加入者率を高める、老人クラブの名前をシニアクラブにする、定年退職者の集える場所作りをしたい等 の提案が出る場合
- ・まちづくり協働課には、【**誰でも提案できるのか？**】を考える必要がある。
個人の提案、または、各地区まち協、コミセンなどで取りまとめた方がいいのか等

市民協議及び行政関係課協議

- ・ラウンドテーブルに【**参画して頂きたい団体の把握**】を先ず行い、その団体からの提案を受けるようにしてはいかがでしょうか。そのことによって、団体からの認識と協力が得られやすくなるのではないのでしょうか（既にそのような取り組みはされているかもしれませんが・・・目線の取り組みというものはすごく重要だと思いますが、現実的には市民はさほど大きな思いを持っていないのが現状だと思います。（中には問題意識の高い人もおられるはずですが）本来ならば、今日までに、そのギャップを縮めておくことが肝心だったんだと思いますが、なかなかそのようにはなっていないのではないのでしょうか（私の個人的感覚です）。
- ・市民協議は、【**まちづくり協議会**】を主としたものが考えられるため、まちづくり協議会の活動推進を図るとともにコミュニティセンターの充実が必要と思います。

開催を公表

- ・市民への発信。どんな内容のことが協議されていて、どのような話し合いが行われているのかを【**タイムリーに発信**】すること。【**市民への周知理解**】が、更なる市民提案につながり、さらには協働事業が実効性のあるものになると思います。

会議

- ・窓口であるまちづくり協働課への増員（協働のまちづくりを熟知した者）、【**中間支援組織**】には、協働のまちづくりの【**コーディネート能力**】を有した専門職員の配置が必要と思います。
- ・コーチングのなかにシステムコーチングというのがあって、これは会議などがスムーズに行くように【**コーチが道案内**】するというシステムになっています。【**どんな小さな意見でも会の声としてあげてくる**】。そして、一人ひとりの意見を尊重してきくというルールもあります。【**リーダーは、「きく力」も必要**】です。
- ・市民側も【**市の課題を冷静に見る目**】と、行政側も【**業務範囲などに縛られず本質的な課題把握**】ができ、その解決に【**前向きな議論**】ができればいい。
- ・活動が口コミで広がるように、ラウンドテーブル開催の際には、参加者の皆さんが【**自由に意見交換できるような配慮**】が必要かと思います。長机を口の字型に並べた20名以上の会議では発言できない方もおられるかもしれません。できるだけ、【**大会議とならないような、仕組み・雰囲気作り**】を行い、参加された方が再度参加したくなるように、また知人にも参加を進めたいような、ラウンドテーブルでありたいと思います。

結果を公表

- ・協働事業の実現がゴールとなっていますが、もし実現につながらなくても、協議のテーブルに挙がるのは、背景となるものや、また【**協議プロセスで生み出されるものがある**】はずだと思います。

反映できることは何か、あるいは市の各課において、しっかりと理解されたのかを示すことが大事だと思います。提案したことが【真摯に話し合われることが保障】されるからこそ、市民が声をあげ、市民協働の気運が高まることにもつながると思います。

- 結果の公表が【形式的とならないように、実事例として周知】できる仕組みも大切だと思います。

協働事業の実現

- 協働事業の実現を図るためには、市民・行政のみでなく【議会の理解】を得ることが求められるため、議会と協働ラウンドテーブルとの関係を整理しておく（【お金の問題】）必要があると思います。
- 協働の場のよりよい成立には、【各主体が同じ目線から物事に取り組む】、【同じ舞台に立っているという意識づけ】

その他提案

- 定期開催が必要、毎日か毎週か毎月か四半期に一度か半期に一度か、毎年開催かは考えなくてはなりません。参加者について、問題提起をする人がいる会合と、話題を提供する人が最初は設定されていない、自由な参加形態のものとの二通りの開催方法があると思います。参加者で、何事か結論を得る会合と、参加者の中では、何事も結論を出さない会合も必要。
- 参加者は、実践について責任を追うことがない会合と、参加者が即実践する役割を担う会合のどちらも必要かと思います。
- ペットボトルのお茶だけでなく、ちょっと一息、コーヒーがするのがよい。
- 一人の話者が時間を独占することがないようにする。発言は1回3分～5分。話題提供は15分程度。

2. その他、自由に意見を記入して下さい。

- この協働のまちづくりの目的をはっきりさせる必要があると思います。それは、既存のまち協との関係を整理することと、市が目指すまちづくりについての、感覚的なものでいいので、そのあるべき姿像みたいなものを市民に対してイメージしてもらえようようにすることが必要ではないかと思います。私の個人的なまちづくりのイメージは、としては、今までの市役所の仕事の一部（かなりの部分かも知れませんが・・・）が、住民が行う町役場みたいなものにするのではないかと考えています。その上でまちづくりと何なのかと検討をしていくと未来像が描けてくるように思います。
- 「市民協働推進計画」は、全地域で一斉に取り組めるものではないので、協働のまちづくりの事例等を学び、行政、地域で取り組めそうなものから取り組んでいく方向で、モデル事業やモデル地域を決め、順次進めて行く方法がよいと思います。先ずは、行政と地域での協働事業を行い、それが進んで行く中で深尾委員長が言われるような協働のまちづくりに繋がると思います。
- 前回の会議は福祉関係の取り組みにかんする話がほとんどであった。
- 向かっていく目標を明確にして、そこにわれわれ委員会がかっていくんだという気持ちをひとつにすることが大事だと思います。その目標とは何かをみたときにでてくるのは『住民一人ひとりがこの町にすんでよかったこの町が好き』にむかうことだと感じました。それには、『パワーアップ』が必要で、『教育』をして、そこで多くのリーダーをそだてることだと思います。その多くのリーダーが住民一人ひとりの声をききます。そして、「つながり」をもっていきます。一つの家に住んでいても一人ひとりやりたいことは違うので、つながる仲間も違ってくるでしょう。それと、長寿社会になっても元気で健康であるための『健康講座』を頻繁に行うのもいいと思います。あと、映画鑑賞会をする。これも一人ひとりの意識を高める映画です。その後シェア会をして、人間力を高めていくのはどうでしょうか？
- まだ1度目の参加ですが、自由に意見を出せるような雰囲気があり、非常に楽しかったと感じました。意見を出しやすいような、ワクワクする委員会でありたいと思います。
- 条例作りから参加させてもらっていたのに、正直「協働」について、明確なイメージを持てずにいます。協働の意味は広く、新しく参加された方と、もう少し協働について意見交換等できると、今後の議論に有効になるのではと思います。

3. その他質問

Q 道路、河川、防災、環境保全等のハード面の取り組みと、これに関して子どもたちの希望・未来あるまちづくりと、おじいちゃん・おばあちゃんが安全・安心・快適・挨拶のあるまちづくりについての取り組みは、市民協働推進委員会では取り組まないのか？

A 市民協働推進委員会で取り組む内容は、第1回目の委員会で話をしましたとおり、市民と市民又は市民と行政の協働が推進するために必要な制度やしきみをつくること及び東近江市での協働意識を高めることです。協働意識が高まり、制度やしきみができることによって、市民と行政の協働が進み、協働での取り組みが推進されます。

Q 体協、社協、人権などの各種団体の活動は協働？

A 各種団体の単体での活動は、自分達の目的のために自分達が活動することなので、協働とは言えませんが、地域の中で他の団体と同じ目的のために役割分担しながら活動しているようなものは協働になります。

Q 16ページの協働の課題への検討をどのようにしていくのか？例えば、今後、コトナリエ実行委員会では、人材、資金不足があげられるとするならばどのように解決していくのか？

A 市民協働推進計画では、協働への課題（8～9ページ、まとめ16ページ）に対応するために、17ページ以降で協働の施策が定めてあります。例えば、人材の場合、18ページに記載のあるとおり「市民と行政の協働促進」「地域リーダーの発掘」等が定められており、計画に基づき、市民と行政でそのための施策を実施していきたいと考えています。

3 東近江市協働ラウンドテーブルのしくみについて

新たに協働で取り組みたい時

○現状

【行政】

- ・複数の所属にまたがるような地域課題に対して、対応できていない。
- ・行政だけでは解決できない課題に対してのアプローチの仕方がわからない。

【市民】

- ・色々な要素がある課題に対して、相談するところがわからない。
- ・行政に協力を得られれば解決できそうなことがあるが、方法がわからない

○課題

- ・新たに生じた多岐に及ぶ地域課題の相談窓口が決まっていない。
- ・市民と一緒に（協働で）、又は横断的に取り組みを進めるための仕組みができていない。
- ・市民が公共サービスに提案できるしくみがない

⇒ 協働で取り組むことのできるしくみが必要

市民協働推進計画に「協働ラウンドテーブルの設置」が規定（25ページ）。

※参考（市民協働推進計画 25ページ）

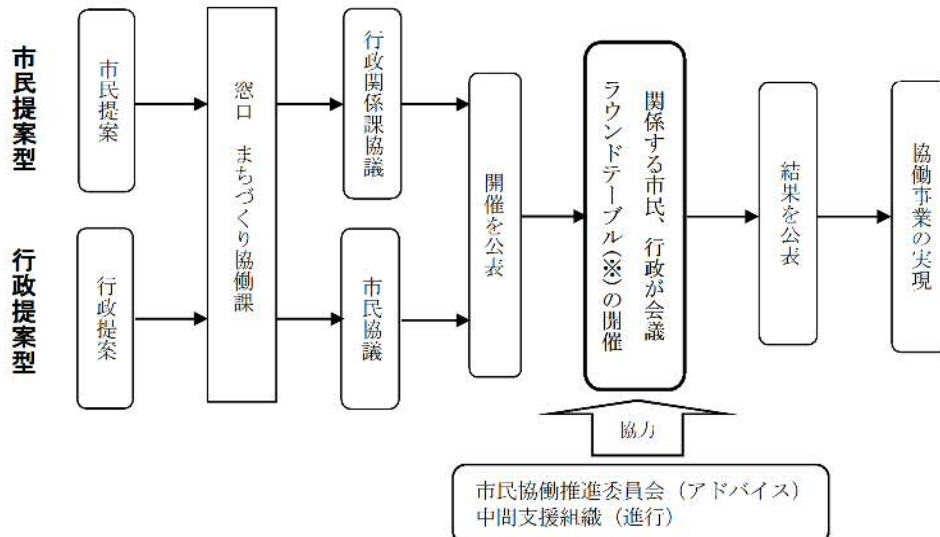
●協働ラウンドテーブル（※）の設置

- ・市民提案型協働事業の実施
- ・行政提案型協働事業の実施
- ・市の施策、予算等への反映

※ラウンドテーブル

出席者の序列や上下関係を問わず、フラットな立場での意見交換を目的にした会議です。東近江市の「協働ラウンドテーブル」では、その結果を予算・研修等に反映し、協働事業の実現につなげます。

協働ラウンドテーブルの仕組み（案）



協働ラウンドテーブル

○目的

- ・地域の課題を把握し、課題の解決に向けた取り組みを協議できるしくみづくり
- ・自分達だけでは解決できない地域課題に対して、協働で取り組めるしくみづくり

○キーワード ※第1回委員会での協働体験、意見シートで頂いた意見

前提となるもの

協働への理解等 協働のまちづくりの理解、人材育成、行政のタテ割りの解消、意識改革、参加意欲

広報 市民の参画、活動を促していく方法、広報活動、行政の制度、行政の情報提供、口コミ
分かりやすい事例の掲示、提案方法の周知

課題の把握 市民の声を吸い上げる、困りごとの把握、困っている人に手を差し伸べることができる

しくみ

市民提案 どのような形式で提案するか、誰でも提案できるのか、市民と行政が同じ目線、難しい手
続きにならないように

行政提案 行政が考え得る全ての可能性のある分野の掲示、市民とのギャップを解消

事前協議（市民、行政） 参加してもらいたい団体の把握、まちづくり協議会、当事者意識、
問題意識、マッチング、コーディネート、色んな立場の人が集まる
チャンネルをたくさん持つておく

開催を公表 内容をタイムリーに発信、市民への周知理解

課題設定、目標設定 未来から過去を考える、登る頂上を定める、何を目的に話し合うのかを共有
ネガティブに捉えない面白いもの、子供達の未来、危機はチャンス、
課題が明白だからこそ助け合う、課題把握が適切か

会議 中間支援組織（機能）、コーディネート能力、道案内、小さな意見でも声として吸い上げる
リーダーは「聞く力」必要、提案したことが真摯に話われることが保障、共感、当事者意識
色んな人が集まる、思いやること、バランス感覚、地域の資源を活かす、話しやすい環境
自由に意見交換できるような配慮、大会議とならないような仕組み・雰囲気作り

結果を公表 実現につながらなくても協議プロセスで生み出されたものがある、形式的とならないよ
うに実事例として周知

協働事業の実現 議会の理解、お金の問題、活動資金、疲弊しないしくみ、役割分担、厚みのある活
動、多くの人が応援できるしくみ、サポーター、各主体が同じ目線から物事に取り
組む、同じ舞台に立っているという意識、色んな人に相談できる

その他 持続可能なこと、まずは活動してみる、地域の絆